

# 担い手通信

2026  
vol. 6

## 106JA69品目 大規模試験

# バイオステイミュラント BS資材 8割で効果

作物の収量や品質の向上を促すとされるバイオステイミュラント  資材 (BS) を手がけるアグリスマイル (東京都千代田区) は9日、全国の100を超えるJAで実施したBSの効果を確認する大規模試験の結果を発表しました。米やトマトなど69品目で試験を行い、8割の圃場 (ほじょう) で収量・品質のいずれかが向上。水稲では、高温での白未熟粒抑制や増収などが確認されたとしています。今後、検証で得られた成果を基に普及を進めます。

### 収量や品質が改善

BSは、高温対策や肥料の削減につながるとして注目されています。一方、栽培現場では、効果が分かりにくいという声もあり、新たに定められた農水省のガイドラインなどに基づき、効果を定量的に検証することが求められてきました。

試験は全国32都道府県の106のJAが協力し、318圃場 (約1500ヘクタール) で行いました。水稲やレタス、リンゴなど69品目について、同社が開発したBSを施用した区と施用していない区を設置。今年4月から試験を始め、収穫・評価を終えた200圃場のデータを分析しました。

BSは、高温障害の軽減が期待できる「ヒートプロテクト」や栄養吸収を補助する「ルートアップ」など、植物残さ由来の複数の資材を使いました。

結果、8割の圃場で収量か品質のいずれかが向上。新潟県のJAみなみ魚沼では水稲でBSを施用したところ、未熟粒の発生が減少して整粒率が上がり、収量が約20%増加しました。北海道のJA道央では、レタスの収量が年間で30%向上。葉が黒く

変色するチップバーンの発生も減り、高温期も含め年間を通じた安定生産ができたとしています。ピーマンで試験したJA全農いわてでは、施用のタイミングや濃度を正しく守ることで規格内の比率が49%増え、収量が40%向上しました。

一方で200圃場のうち2割では、効果が見られませんでした。アグリスマイルは、実証自体が中止となったり適切な条件でBSが施用されなかったりしたためとだとみています。担当者は「(BSは) 施用する生育時期や濃度などの条件がとても重要になります。正しく使うことで効果が得られます」と話します。

### 試験の主な成果

試験したJA	品目	効果
JAみなみ魚沼 (新潟県)	水稲	・未熟粒の抑制 ・収量約20%向上
JA道央 (北海道)	レタス	・収量約30%向上 ・チップバーンの抑制
JA全農いわて (岩手県)	ピーマン	・規格内の比率49%増加 ・収量約40%向上
JAきたみらい (北海道)	ジャガイモ、タマネギなど	・肥大の改善
JAさらべつ (北海道)	ジャガイモ、テンサイなど	・肥大の改善 ・葉のおしおれ改善
JA大湯村 (秋田県)	カボチャ	・定植後の花のおしおれ改善 ・収量増加

### ことば バイオステイミュラント

作物や土壌に施すことで、作物や土壌が元から持つ機能を補助する資材。栄養成分の利用効率を高めたり乾燥や高温などのストレスに対する耐性を改善したりする。結果として、農産物の品質または収量が向上するもの。

(日本農業新聞 2025年12月10日)